



今月のみさとし/拝むとは何という美しいことで、最尊の礼は拝むにあります。(『ご聖訓』第八巻13頁)

新日本宗教青年会連盟主催「第57回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」(8.14 式典)

## 世界平和実現に向け、宗教青年が一つに



千鳥ヶ淵墓苑の六角堂において、戦没者に向かい平和を祈願して1分間の黙祷



岡野青年本部長が本会を代表して力強く勤行を念唱



各教団の代表者が参列して英霊へ供養の誠を捧げる

終戦記念日を翌日に控えた8月14日、解脱会が加盟する新日本宗教青年会連盟主催の「第57回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」(8.14 式典)が、東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて開催された。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小し、各教団代表者が参加、本会からは岡野英夫理事長、岡野孝行青年本部長が参列した。

式典は日中の猛暑が残る中、午後6時に開式。新宗連青年会の宮本泰克委員長が主催者挨拶にて、ロシアによるウクライナ侵攻に触れ、何ができるのかと自問し無力感で苦しくなることもあるが、「私たち宗教者は祈ることができます」として、ライブ中継を通して全国の多くの仲間とつながっていることを感じながら、

すべての戦争犠牲者に対する慰霊と、世界平和実現に向け共に祈りを捧げることの意義を述べた。

続いてコロナ禍により、移動や人と人の接触機会が制限される中で、より一層「想像力」と「共感力」が重要となってきたとして、「神仏の視点から世界を想像してみると、先の大戦も海外の紛争も、つい最近の身近な出来事として自分事に捉えることができるのではないだろうか」と問いかけ、「宗教青年が先頭に立ち、未来へ平和のバトンをつないでいきたい」との決意を表明した。

教団別礼拝では、インターネットを通してライブ配信され、画面を通じて式典に合わせて各加盟教団の全国の会員が平和を祈願した。解脱会からは、岡野孝行青年本部長が先頭に立ち、全国の会員や

青年部員らと共に祈願文、三綱五常報恩を念唱した。

続いて、六角堂前に加盟教団青年代表が整列し、松緑神道大和山信徒の菊地公仁氏が「平和へのメッセージ」を奏上、続く「平和の祈り」では宮本委員長の先導に合わせ黙祷を捧げた。

### 御霊地で折鶴を焚き上げ

翌週の8月20日、「8・14 式典」に奉納された折鶴が今年も新型コロナウイルス感染拡大防止からすべての奉納は行えなかったため、青年本部では千鳥ヶ淵戦没者墓苑において独自に千羽鶴を奉納し慰霊祭を執行。式典終了後は御霊地へ移動し、新宗連事務局の立ち会いの下、折鶴のお焚き上げが浄炎場にて行われ、8.14 式典の行事一切が締めくくられた。

### 黒姫出張所・天茶法薬加持の儀

## 作業の安全を祈願

8月20日、一足早い秋の訪れを感じさせる小雨が降る中、長野県黒姫高原の解脱会黒姫出張所にて天茶法薬加持の儀及び工場火入れ式が執り行われた。感染防止策が十分に取られる中、岡野英夫理事長をはじめ本部役員、また久しぶりにパート女性職員の参加もあった。

まず式典に先立ち、地元の氏神である諏訪神社と赤渋神社を参拝して、日頃のご加護への感謝を捧げた後、黒姫出張所へ移動した。

正午開式。まず黒姫工場2階御神前にて岡野理事長を導師に、役職員が天茶法薬加持の儀を行った。続いて、第1作業棟にて火入れの儀と天茶供養が行われ、作業の安全が祈願された。共に参列したパート女性職員からは、安心の笑顔がこぼれた。黒姫の豊かな自然に育まれ、職



パート女性職員も参列しての火入れ式を挙行

員らの真心が込められた良質な天茶が今秋には各家庭に届けられる予定である。

8月度研修・修法研修

# 支部を支えていくために

8月27日、御霊地・解脱研修センターにて修法研修が開催された。今回、初めての参加者も含めて、計31人が研鑽を積んだ。

研修では、最初に大賀光夫修法部長が「皆さんには仲介者として支部を支えていく大切なお役目がある。そのためにも御五法修業の



お浄めをおこなう参加者

尊さについて、研修でさらに深めていた

次に、基礎編の講話では宮崎順史職員が『修法シート』を紐解きながら「御五

法修業の目的をしっかりと理解することが大切。金剛さまは、御五法修業は人々の幸せを願える心を作っていくために行うことから『人格完成の道すがら』と申された。御五法修業の神秘的な現象や心霊的な形に囚われると、本来の目的から遠くなるので注意が必要」と述べた。

この後の実修では、班毎に分かれて講話の内容を心に置いて学びを深めた。

最後に、田村和彦常任理事が「これからも皆さんがご活躍するためにも今後も研修で学びを深めて欲しい」と挨拶した。

参加者は、仲介者のお役目の重要性を再認識したと共に、今後も研修などを通して御五法修業の基本を深め、さらなる勉強を積む大切さを学んだ。

9月度研修・一般基礎コース

# 会員としての学びを再確認

今年2回目の一般基礎コースが、感染拡大防止の観点から9月3日のみで御霊地にて開催され6名が参加した。

三浦純教育部長の開講挨拶の後、西脇武利教育部次長が自身の座談会を通じた体験を発表、参加者に茶話会活動を行うヒントを提案した。

続いて、藤原博内務局長が「天茶の尊さ」をテーマに『解脱実修要典』を用いながら自身の体験も交え、天茶供養の尊さを具体的に述べた。



解脱金剛宝物館前で記念撮影

次に、佐久間学調札部長より「萬部供養の意義」をテーマに、『新版・解脱金

剛伝』の内容を参考に陀羅尼經の説明を加えて、萬部供養の申し込みを控えた時期にふさわしい講義があった。

昼食後は、お山各所を三浦部長の説明を受けながら第二経蔵を含めて参拝し、研修生は新たな気づきを得た。

解脱金剛宝物館前で記念撮影後に解脱研修センターへ戻り、宮坂保徳教務局長より「大祭に向けて」と題し、秋季大祭を直前に控えて会員の使命など多角的な講義があった。

研修を通して解脱会員としての学びを再確認した参加者から、「先生方の話に胸を打たれた」「今後も自分で学びの機会を作っていきます」との喜びの声が聞かれ、実りの多い研修となった。

## 令和5年度 皇居勤労奉仕のご案内

解脱会として皇居勤労奉仕団を編成して、皇居などで除草、清掃、庭園作業等の奉仕をさせていただきます。参加希望の方は、支部長承認の上でお申し込みください。(詳細は、9/1付本部通信もしくは解脱会ホームページ)

- 参加資格 自分の健康・体力に責任をもち、4日間すべてを奉仕できる満15歳～75歳<昭和22年4月14日生～平成20年4月10日生>
- 期 日 《第一候補日》令和5年4月10日(月)～13日(木)  
《第二候補日》令和5年4月11日(火)～14日(金)  
(作業時間は8時30分～15時30分。8時15分皇居参入)  
※宮内庁にて抽選が行われます。決定予定は12月頃。
- 作業場所 皇居もしくは赤坂御用地
- 募集人数 12名～30名
- 申込メ切 10月15日(当日消印有効)
- 費用 5,000円=勤労奉仕初日に集金(昼食弁当代、記念写真代を含む。但し、宿泊代及び現地までの交通費は自己負担)



申込・問合せ先=解脱会教育部研修係  
〒160-0007  
東京都新宿区荒木町4(宗)解脱会  
TEL 03(3353)3667(教育部直通)  
FAX 03(3353)3708(教務局共通)

東京第6教区・夏の三聖地巡拝

## 国恩報謝の道を歩む決意を新た



伊勢神宮の内宮を進む一行

8月20日・21日、東京第6教区では3年振りとなった「第16回夏の三聖地巡拝」を行い、各支部代表53名が参加した。

一行は、名古屋駅からバス2台に分乗し伊勢神宮へ。伊勢神宮では外宮・内宮を参拝し、心身共に神宮の神気に触れた。

翌朝、橿原神宮・内拝殿参拝の後、長倉健一祭儀部長より丁寧なご挨拶を頂き、神武天皇が鎮まる畝傍山御陵を奉拝した。

続く御寺泉涌寺では、御陵奉拝の後、霊明殿にて御焼香、勤行を捧げた後、上村貞郎長老猊下より挨拶を賜り、「秋の大祭にはぜひ御霊地へ伺いたい」とのお言葉に一同感激。

解脱金剛宝塔前では、金剛さまに巡拝の無事完遂を報告し、国恩報謝の道を歩む決意を新たに強くした。

岐阜関ヶ原支部・大供養塔再建立

## 地域に根付いている喜びを実感



新たな供養塔の前に供養の尊さを再認識する会員たち

岐阜関ヶ原支部では7月31日、古戦場跡地にて怨親平等大供養塔の再建立と建立式を執り行った。これは平成6年8月に建立した先の供養塔が古くなり、再建立となったもの。今回、自治会長や地域の方々の協力を得、地元で根付いている喜びを会員らは実感した。この地は、かつて金剛さまが東海道線での移動の車中、合戦で亡くなった霊魂より供養を求められた場所であり、思いを受け継いだ岐阜関ヶ原支部が昭和50年代に供養塔を建立、毎年春と秋に地域の人々と供養会を開催している。

建立式の後、支部幹事は「地元からも親しまれ愛される供養塔にお蔭さまと感謝申し上げます、立教100周年に向け精進努力させていただきます」と述べていた。

北海道々南教区・教区大会

## 先人の労苦に思いをはせ



教区の歴史と先人の思いの重さを学ぶ参加者

北海道々道南教区では8月21日、「恩を知り礼に生きる」をテーマに3年ぶりの教区大会を札幌道場にて開催、本部より車康平指導員が出講し、新型コロナウイルス感染予防の対策を施し空気清浄機も導入、安全安心の中、63名が参加した。

冒頭に道南教区の歴史を振り返るDVDを上映後、講話に立った車指導員は、教区の歴史を紐解きながら先人の労苦と功績を偲び、新型コロナウイルス感染拡大にどう向き合うべきかを述べた。後半では鈴木秀男教区長を導師に、霊界入りされた先覚者・支部長の天茶供養を厳修した。

道南教区の60年の歴史を振りかえり、参加者一人ひとりが先人の労苦に思いをはせ、さらなる躍進の誓いを新たにした。

中国第1・第2教区・第44回広島原爆犠牲者供養会

## 原爆犠牲者の霊魂が待ち望む



過ちを繰り返さないことを原爆犠牲者に改めて誓う参加者

8月21日、中国第1・第2両教区共催による広島原爆犠牲者供養会が広島平和公園原爆供養塔前にて開催され、26名が参加した。当供養会は、今年で44回目。当日は、広島可部支部を中心に地元会員が多く集まったが、新型コロナの影響を考慮して一般会員は任意参加となった。

終了後、「コロナ禍において感染防止対策を施しながらも途切らさずに行ってきたのは、原爆で犠牲となった霊魂が待ち焦がれているとの思いを会員一人ひとりが胸に強く持っているから」「供養が終わった時の心の安らぎから、犠牲者の霊魂が解脱会による天茶供養をどれだけ待たれているかを実感させてもらった」との声が参加者から聞かれた。

解脱鍊心館が創立 50 周年

# 青少年の健全育成に努め半世紀



解脱鍊心館の道場を前に、師範、門下生、保護者・後援会が勢ぞろい。枠内は発刊された50周年の記念誌

解脱鍊心館が昨年8月に創立50周年を迎え、今年3月13日に記念館内大会を盛大に開催、3月31日には記念誌並びに記念特別DVDを発行した。

解脱鍊心館は昭和46年8月、剣道を通じて青少年の健全育成を目的に、地域社会への貢献活動として解脱会が創設した。当時の門下生は、北本市内を中心に5人。だが10年後には、小学生から社会人の幅広い年代の門下生700人が通うまでに発展した。その背景には、解脱の教えを基にした解脱鍊心館の人間教育にある。解脱鍊心館では、三綱五常報恩を道場訓として掲げ、剣道の技術向上を図る以前に精神形成に眼目が置かれ、礼節や感謝、他人を思いやる大切さなどを門下生へ伝えた。教えを受けた門下生たち

は、親や近所の大人たちへ元気よく挨拶をしたり兄弟や下級生の面倒をみたり実生活で素直に行っていた。門下生のその姿は次第に地域の大人たちの解脱鍊心館に対する信頼へと広がり、子供たちを通わせる家庭が増えていき、埼玉県内でも有数の剣道場へと発展した。

翌昭和47年には、地元有力者と門下生の保護者を中心に解脱鍊心館の活動を支えようと後援会が発足。解脱鍊心館で開催される試合での会場運営、様々なクリエイションの企画運営、最近では少子化で入門者の減少に伴い、チラシを作成して北本市を中心に幼稚園や小学校などへ配布し、門下生拡大に尽力している。

さらに解脱鍊心館では、昭和51年から全日本剣道連盟の要請により「外国剣



門下生たちは稽古を通して精神の向上が育まれている

道指導者講習会」を受け入れ、以来、毎年夏には世界中の剣士が御霊地に集い剣道の技術や指導力を磨いている。今や「北本・解脱」と言えば、世界剣道のメッカとして知られている。

また創立30周年を迎えた平成13年、「日本一の道場」と目標を掲げて、門下生、指導者、保護者が同心協力して努力を重ねた。そして「常に昨日の我に今日は勝つ」との先人の言葉を胸に、厳しくても努力を惜みず技術と精神力を高めた門下生は、埼玉県内外や全国大会で好成績を収めるようになった。

田中宏明館長は記念誌の中で鍊心館の将来像を次のように述べている。

「所期の目的である青少年の健全育成を柱として、お互いに認め合い、支え合い、励まし合いながら、剣道を愛し、仲間を信頼し、与えて求めぬ太陽のように謙虚な努力を惜みず、門下生、指導者・保護者が大きな家族として共々に成長していく、そんな道場であり続けたい」

青少年の健全育成が強く叫ばれている昨今、日本の武道である剣道を通じて人間教育を重ねる解脱鍊心館の活動はさらに重要性が増していこう。

## 解脱金剛74年祭のご案内



●とき 11月4日(金) ●ところ 京都・御寺泉涌寺

●行事日程

10:30 奉告祭(於解脱金剛宝塔前 ※常任理事以上参列)

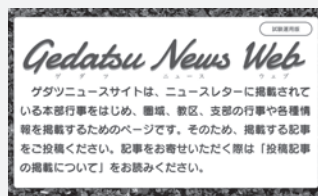
12:00 第一部 御法要(於舍利殿)

※解脱金剛御法要 / 齋祀精霊法要(齋祀遺族入堂)

14:00 第二部 奉斎之儀(於解脱金剛宝塔前) ※齋祀遺族参列

※人数制限は設けず齋行いたします。詳細は10/1付本部通信を参照。

## ニュースレターは ホームページへ



QRコード

ホームページアドレス <http://www.gedatsukai.org>

長年ご愛読いただきましたニュースレターは、令和4年12月号を持ちまして、解脱会ホームページの会員専用ページ内のニュースサイト「ゲダツニュースウェブ」に移行させていただきます。

大変ご不便をお掛け致しますが、令和5年1月から変更となるご対応を、何卒よろしくお願致します。